

第3回 理事会

日 時：令和3年6月18日(金)11：30～12：40

場 所：Web会議

出席者：長田会長(議長)，伊藤副会長，清水副会長，
末永常務理事，池見，稻垣，太田，大沼，奥村，
小俣，北田，佐々木，竹村，徳永，富岡，西山，
長谷川(淳)，長谷川(信)，林，船山，升元，
和田各理事
野村，齋藤各監事
欠席者：秋山，大谷，三好各理事
(理事25名中22名出席(過半数)により理事会は成立)

陪席者：熊谷(事務局)

議事内容：

1. 前回議事録の確認

- ・令和3年5月19日開催の第2回理事会の議事録案について承認した。

2. 審議事項

1)会員状況の確認

- ・事務局長から6月18日時点の会員状況について説明があり、9名の正会員、1名の学生会員の入会を承認した。
- ・正会員1,821名、学生会員41名、名誉会員57名となり、総数は1,919名であることを確認した。

2)文部科学大臣表彰への推薦について

- ・常務理事より、標記の説明がなされた。審議の結果、中部支部長である吉田英一会員を学会として推薦することについて承認した。

3)支部予算および会計について

- ・常務理事より、標記の説明がなされた。審議の結果、支部予算と会計に関して、関連する規程類を改定することについて承認した。
- ・規程を改定する際は、別途理事会にて審議することが確認された。

4)CPDに関するワーキンググループの設置について

- ・常務理事より、標記の説明がなされた。審議の結果、将来構想検討特別委員会より提案のあったCPDワーキンググループについて、総務委員会において設置を検討することを承認した。
- ・ワーキンググループの構成、検討事項等具体的な内容については総務委員会で検討し、次回以降の理事会で審議することとした。

3. 本部からの報告事項

1)収支状況について

- ・事務局長より、令和3年度4月、5月の本部収支予算について説明がなされた。

2)ダム地質カードカレンダーの配布時期等について

- ・担当理事より、標記の説明があった。6月26日から

開催の「ダムカード展」に合わせた今年度版ダム地質カードカレンダーの配布、学会員向けの来年版ダム地質カードカレンダーの配布(12月号を予定)について確認された。また、これに関連し、末永常務理事より、藤岡市で開催される「ダムカード展」への後援依頼について説明があり、依頼に応諾したことが確認された。

3)キャリアデザインセミナーについて

- ・担当理事より、標記の説明があった。前日まで申し込みの受付は可能とのことであった。

4)令和3年度研究発表会について

- ・担当理事より、標記の説明があった。会場、参加登録料、意見交換会、現地見学会、アース・サロン等について確認された。

5)一家に1枚ポスターへの応募について

- ・担当理事より、標記の説明があった。企画案とポスターの案が確認された。

6)第7回応用地質技術入門講座について

- ・担当理事より、標記の説明があった。講座の内容と、今後参加募集が実施されることが確認された。

7)新型コロナウイルス感染症対応について

- ・常務理事より、標記の説明があった。6月20日までが期限となっている緊急事態宣言等を受けた対応が報告された。

8)他学協会からの依頼

- ・常務理事より、一般社団法人日本電気協会から、原子力発電所耐震設計技術指針への掲載のため、会誌「応用地質」ならびに研究発表会講演予稿集の転載許可依頼があり、転載を許可したことが確認された。
- ・常務理事より、一般財団法人女性科学者に明るい未来をの会から「第42回猿橋賞」受賞候補者の推薦依頼について説明があった。今後広報を行うとともに、候補者がいる場合は直接推薦を打診することを検討することとなった。
- ・常務理事より、鹿島学術振興財団の2022年度研究助成への推薦依頼について説明があり、推薦する研究の有無について検討することとなった。ただし、募集要項に「学会・大学等の機関の事業・研究活動として実施されている研究は対象としない」旨の記載があり、推薦できる研究の範囲について確認することとなった。

4. 各委員会・支部・からの報告事項

1)総務委員会、国際委員会、研究企画委員会

- ・各委員会より直近に開催された委員会議事録が提出され、説明された。

2)北海道支部

- ・担当理事より、北海道支部のこれまでの活動内容が

報告された。

- ・支部総会を実施したこと、刊行物(EPOCH)をpdfにてホームページで公開する方針に変更したこと、北海道自然災害史研究ワーキンググループを立ち上げたことが確認された。

5. その他